

Ⅱ. 総務本部報告

1. 組織運営の充実・強化

- 1) 次期役員改選に向け、よりスリムな組織運営を執り行えるよう、現定款を踏まえた、理事、監事及び評議員の規程を見直し、選出を行いました。
- 2) 役員、専門委員に対し、組織運営に必要なルールの開示と対応方法について教育を実施しました。
- 3) 広報委員会で電子及び紙媒体を使用した情報発信が的確に行われ、会員のみならず、広く情報公開を行いました。
- 4) ジュニア雪とのふれあいツアーを、普及振興委員会の下、海老名市スキー協会との合同開催により、海老名市のジュニア育成への支援を行いました。
- 5) 協賛会員募集要項を見直し、会費費用の税制優遇への案内を発信しました。
- 6) レンタルボックスを活用し、保管書類、備品類の整理、整頓を実施しました。

2. 財政の健全化

- 1) 基本財産の運用方法について検討を行いました。具体的な方法が見出せませんでした。引き続き市場を考慮した検討を行います。
- 2) 現行の規定の見直しを行い、新たに経理規程として提案しました。

3. 事業運営の改革

- 1) 十数年ぶりの少雪となり、事業運営も危ぶまれる状況でしたが、第一に参加者の安全を優先した事業運営を行いました。
- 2) バス料金、飛行機代、ホテル料金高騰に、少雪となった北海道行事でしたが、参加者の方々の協力の下、満足できる行事運営を行うことができました。
- 3) 各大会でハンディキャップクラスの方々が参加しやすいよう、適切な役員の配置を行いました。
- 4) 県連ホームページ ジュニアルームを通じた加盟団体のジュニア行事の紹介により、一般スキーヤーからの問い合わせが増え、参加に繋がりました。

4. 他団体との連携強化

- 1) ジュニア雪とふれあいツアーでは、県スキー指導員会の支援を頂き、スムーズな運営が出来ました。